

報道関係各位

大分県西部の地震(M6.2)の前兆捉える

～徳大測定点 早くも成果上げる～

NPO 法人大気イオン地震予測研究会 e-PISCO(理事長：^{わだつみ きよし}弘原海 清 =大阪市立大学名誉教授、事務局：大阪市西区)では、大気イオン濃度の急上昇が大地震の有力な前兆現象と考え、大気イオン濃度測定器を全国 10 か所に配置し、測定を続けています。弊会の測定ネットワークでは、2006 年 6 月 12 日 05 時 01 分に**大分県西部で発生したマグニチュード(M)6.2 の地震の前兆と思われる大気イオン濃度異常を捉えることに成功しました**。今月 1 日に運用を開始したばかりの徳島大学工学部測定点でも前兆を捉えました。

弊会では現在、全国 10 か所に大気イオン濃度測定点を設置していますが、関西以西の 6 測定点すべてで異常を捉えました。最初の異常は、地震から約 25 日前の 5 月 18 日～19 日、岡山・理大 1、兵庫・南あわじ、兵庫・川西の 3 測定点で異常が記録されました。また、6 月 8 日には岡山・理大 1、兵庫・南あわじ、徳島の 3 測定点で異常が検知されました。このほか、岡山・理大 2 測定点や大阪・吹田測定点でも異常がありました。一連の異常で最も高い値は、6 月 8 日に南あわじ測定点で記録された 93,260(個/cc)で、通常の約 100 倍でした。詳細につきましては解説資料をご覧ください。

報道各位には、ご多忙中恐縮ではありますが、本件の周知ならびに取材を賜れば幸いです。

弊会の詳細につきましては、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.e-pisco.jp/>

本リリースのカラー版は <http://www.e-pisco.jp/npo/pr.html> からご覧ください。

【お願い】掲載後、記事を下記事務局まで郵送くださいますよう、お願い致します。

本リリースの問い合わせ先

NPO 法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

理事(事務局長兼務) 岡本 和人

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1 丁目 4-21

日宝肥後橋中央ビル 304 号

Tel/Fax : 06-6444-3781 E-mail : npo@e-pisco.jp

解説資料

5月18日から20日にかけて、西日本各地の測定点で大気イオン濃度が急上昇、18日11時半頃には岡山・理大1測定点で24,690(個/cc)、19日09時半頃には兵庫・南あわじ測定点で75,389(個/cc)、19日19時半頃には兵庫・川西測定点で33,345(個/cc)を記録しました。また、6月8日から10日にかけても複数の測定点で大気イオン濃度が急上昇し、8日19時頃に南あわじ測定点で93,260(個/cc)、9日01時半頃には、6月1日に測定を開始したばかりの徳島測定点で8,689(個/cc)を観測しました。このほか、5月26日20時半頃には岡山・理大2測定点で80,941(個/cc)、6月6日14時頃には大阪・吹田測定点で51,635(個/cc)を記録しました。

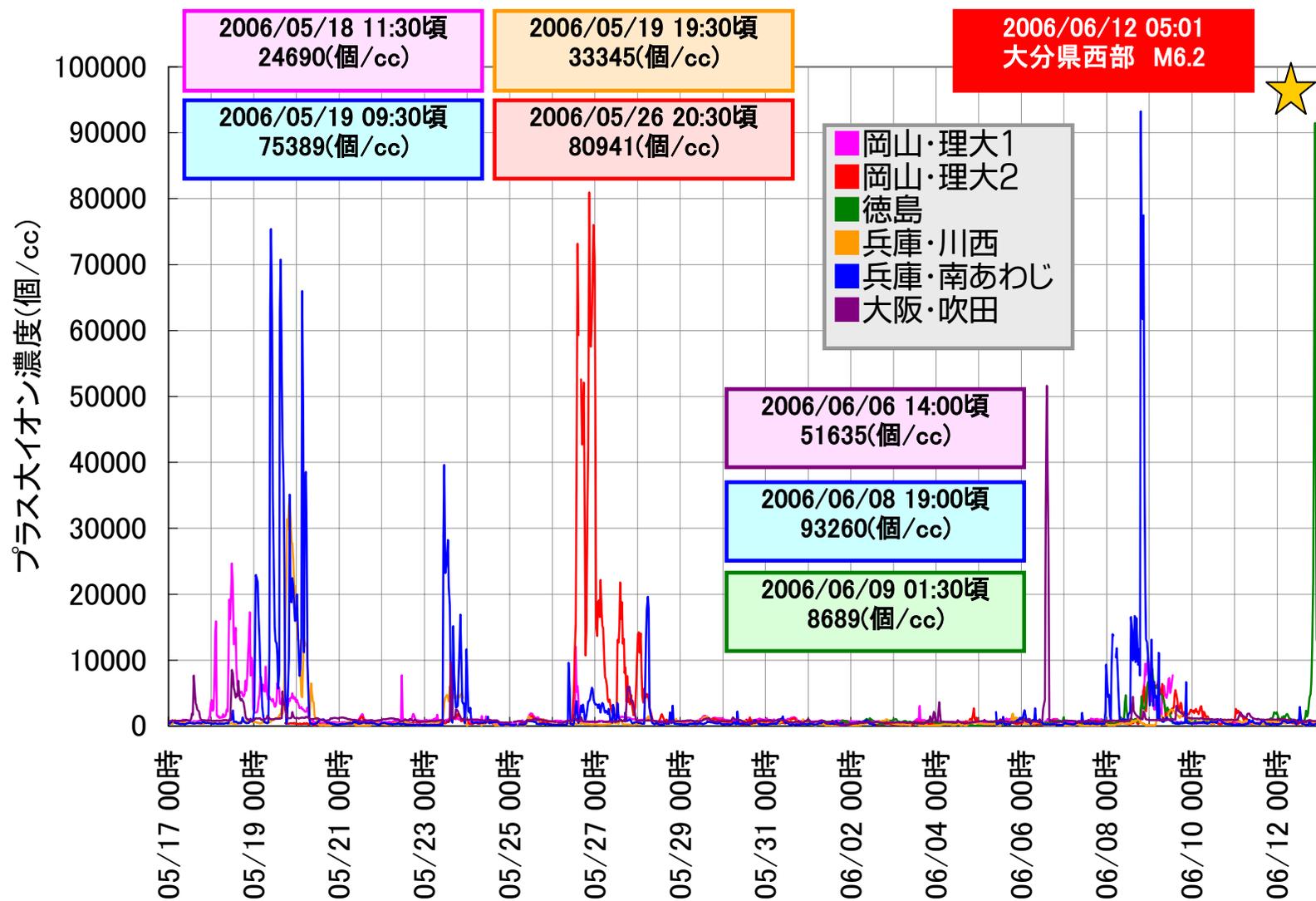
e-PISCOではこの期間に西日本の全測定点で異常な値を記録し、しかも複数測定点がほぼ同時に異常を示したことから、会員の皆様にメールでお知らせするなど警戒を強めていたところ、6月12日05時01分、大分県西部の深さ146kmでM6.2の地震が発生、西日本で強い揺れを観測しました。e-PISCOでは一連の異常が大分県西部の地震の前兆と見られると判断しています。

今回の地震の震央と各測定点までの距離(震央距離)は、最も近い理大1、理大2測定点で290km、最も遠い吹田測定点で418kmで、距離がやや離れています。ただ、今回の地震がスラブ内地震(ユーラシアプレートの下に沈み込むフィリピン海プレート内部の深いところで発生した稍(やや)深発地震)であったことから、エネルギーが震源直上のアセノスフェア(Low V Low Q層:地震波の速度が小さくエネルギーの減衰が大きい層)には進まず、フィリピン海プレート内のHigh V High Q層(速度が大きく、減衰が少ない層)を伝わり、大気イオン濃度も震度分布と同様、震央よりも東側で強く出たと考えられます。

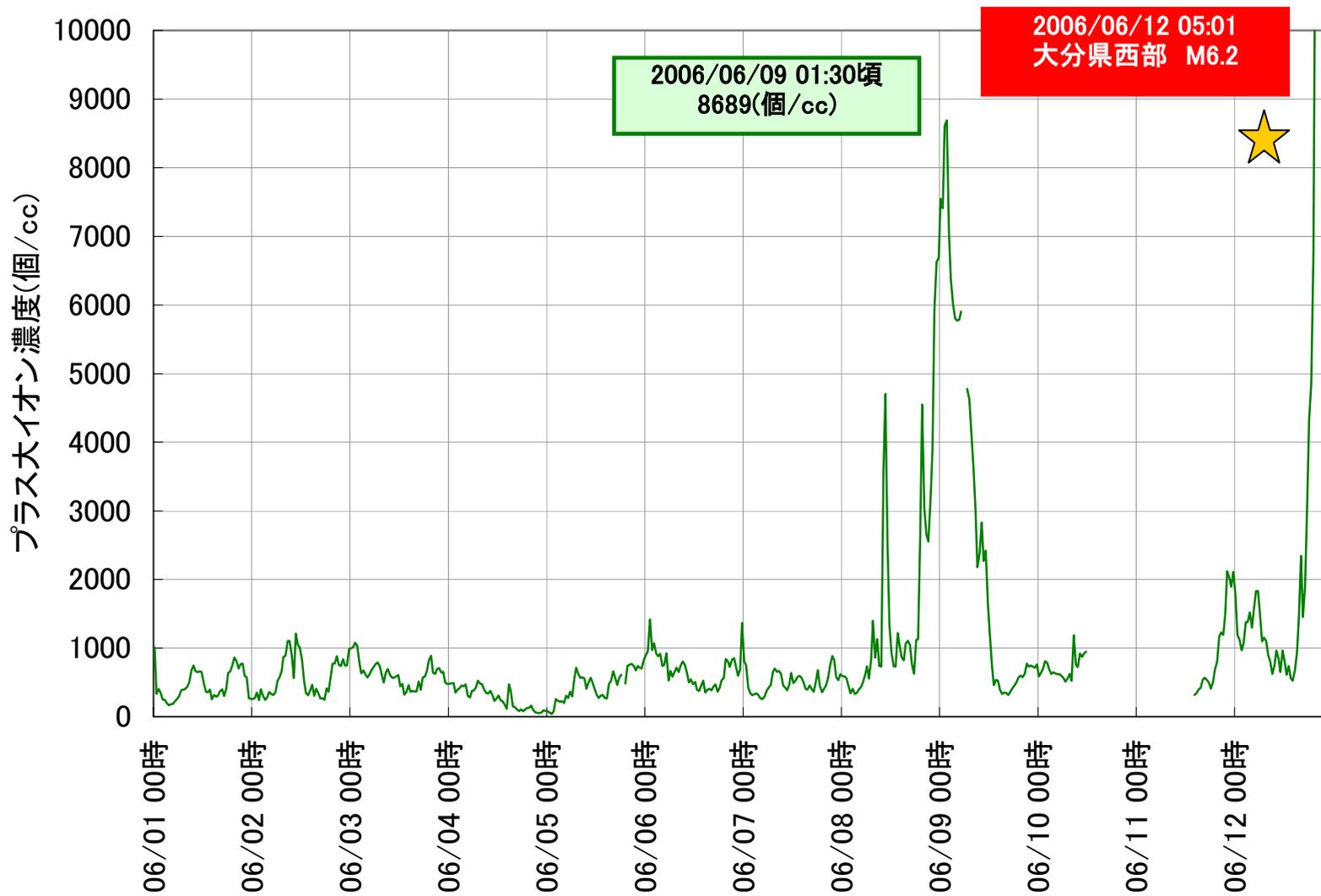
今回のように沈み込むフィリピン海プレート内部で発生した地震としては、平成13年(2001年)芸予地震(M6.7、深さ46km)や昭和58年(1983年)の大分県北部の地震(M6.6、深さ116km)、明治42年(1909年)の宮崎県西部の地震(M7.6、深さ150km)などがあります。

各測定点における震央距離と先行時間

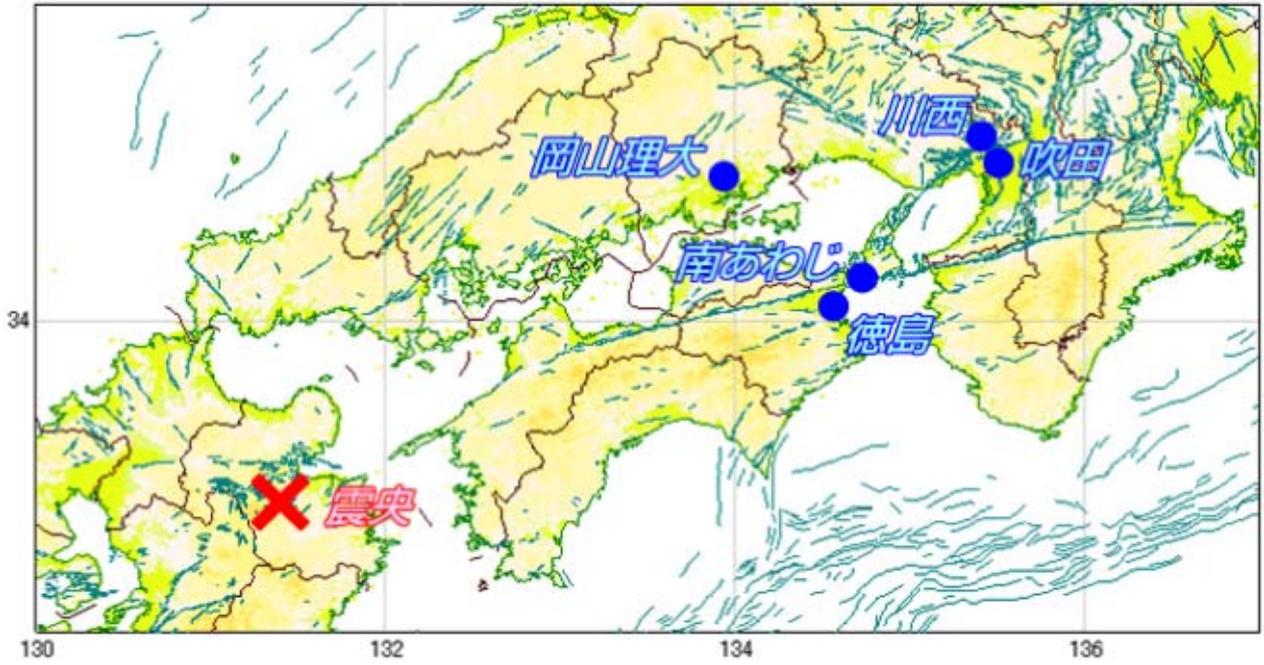
	岡山・理大	兵庫・南あわじ	兵庫・川西
震央距離	290km	330km	416km
先行時間	約25日	約24日	約24日
	大阪・吹田	徳島	
震央距離	418km	310km	
先行時間	約6日	約3日	



西日本の大気イオン濃度変化 岡山・理大2測定点は5月19日夕方までメンテナンスのため測定停止、徳島測定点は6月1日から運用開始。



徳島測定点の大気イオン濃度変化 6月1日、徳島大学工学部にて運用開始



西日本の測定点と震央

e-PISCO大気イオン濃度測定網
2006年6月現在 10測定点



全国の大気イオン濃度測定点分布